

湘南ペガサスサッカークラブ発足時のエピソード

第3代会長 牧村 英樹

40年前の私は70～80歳までサッカー続ける事など間違っても考えることは有り得ませんでした。改めて40周年を迎え、今日まで曲がりなりにもグラウンドで仲間たちと一緒に汗をかけ続けている自分がほんとうに幸せ者だと強く感じる今日この頃です。

柳川先輩45歳を筆頭に岡田先輩・松本先輩・大内先輩達の飲み仲間に私35歳が入れて頂いた5人のメンバーが菊名駅近くの居酒屋で一杯やっていたのが今から41年前のことでした。酒が進につれサッカー談義が盛り上がってきたところで、岡田先輩と私は寸前まで丸紅サッカー部と一緒にボールを蹴っていたことも手伝って、自ずと湘南サッカー部のOBでクラブチームを創ろうかと言った流れとなりました。チーム名は、僭越ながら私が“羽の生えた駿馬が空に羽ばたく姿”が好きで「ペガサス」の名前を提案しました。酒の勢いもあったのでしょうか、その場で決定しました。

<クラブの組織化>

クラブ発足間もなく、私は仕事の関係で転勤が続き、クラブ発足後の運営（選手の確保～相手チーム探し～その後の各種大会への参加）に関しましては、今は亡き大内先輩を始め中原先輩等の皆様方のご努力によりクラブの規模が拡大されていきました。50歳頃に神奈川の方に戻って来、再びペガサスに戻らせて頂きました時にはかなり活発な活動が成されていました。クラブの初代柳川代表から2代目井上代表へと引き継がれクラブ所属選手も大幅に増加しており運営側のご苦労も大変であったと見受けられました。運営側のお手伝いをする内に、井上代表よりご下命が下り止む無く3代目を受けさせられました。最初に組織化を図る為のクラブ規約作成、年齢別カテゴリー毎のチームの明確化、それぞれチーム内の役員の明確化、本部機構のメンバーの明確化、運営の為のチーム毎の会費・本部への上納金制度、チームを超えて年齢を超えて一緒に汗を流し酒を交わすペガサスサッカー祭の開催、モチベーション向上の一環としてMVP賞の設定等々役員の皆様のご協力を頂きながら現在の姿に繋がってきました。選手の年齢も40～84歳までとなりカテゴリー別でも7つとなりました今日のペガサスを創り導いて下さったのは多くの方々のご協力ご支援の結果ではありますが、県内・県外共にシニアサッカーの今日の姿を創り上げられた最大のご功労者は中原先輩だと思います。そのご努力そして挙げられた成果には深く敬意を表したいと思います。

カテゴリー別の各チームが各種大会で勝ちに行く試合を目指すことは勿論でしょうが、クラブの大事な本流は40代から80代の会員がペガサスサッカー祭等を通じた交流を通して良い意味で互いに刺激（年配者は若い人からのエネルギーを、若い人は年配者から先々の自分の有るべき姿を）を吸収し合えるクラブ環境の持続かと思えます。永遠に湘南ペガサスサッカークラブの繁栄続きます様、年代別毎に後輩を育てて頂きます様念じて止みません。